

総合経営学部チームが最優秀賞



受賞報告の記念撮影。左から澁谷泰秀学長、藤原さん（青森山田高等学校 通信札幌校卒）、長谷川さん（クラーク記念国際高等学校 秋田キャンパス卒）、山田さん（青森商業高等学校卒）、沼田教授



2023年(令和5年)

第1号

発行
青森大学
広報室

〒030-0943
青森県青森市
幸 畑 2-3-1
TEL 017-738-2001
FAX 017-738-0143



爆弾パンに青森りんご

台湾との連携ビジネスプランコンテスト

「青森発！台湾との連携によるビジネスプランコンテスト2022」で、総合経営学部の蔡美芳准教授ゼミの学生らチーム「青台BOOM（あおだいぶーむ）」が最優秀賞を受賞した。台湾



中は、レーズンやスフレペーストが入っている
爆弾パン。一般的に、外はカリカリ。

で一般的に食されているパン「炸彈麵包(爆弾パン)」を青森県産のりんごなどと組み合わせ、新たなスイーツとして青森と台湾で販売するというプランだ。

プラン作りには長谷川拓海さん、コウヨアンさん、藤原響真さん、山田修平さんが参加した。コンテストはイノベーション・ネットワー

クあおもり(事務局・青森県商工労働部新産業創造課)が主催した。若者の新たな発想によるビジネス創出と将来的に台湾とのビジネス交流にチャレンジする人材を育成するのが目的だ。大学生らを対象とする青森と台湾の双方の

クあおもり(事務局・青森県内)の5つの大学の学から9つのプランの応募があった。専門家からの意見などを参考に第一次選考で5つのプランを選定し、各チームのプレゼンテーション

による最終選考が行われた。表彰状の授与は3月7日に実施した。強みを組み合わせた新商品の開発を内容としたビジネスプランを募集した。

青台BOOM代表
長谷川拓海さん

「着想の重要性痛感」

コンテスト参加とプラン作成の経緯について教えて下さい。

人まで人気があるが、日本の多くの人にはなじみがなく、非常にシンプル

「指導教員の蔡先生が台湾出身であることから本コンテストへのエントリーを決めました。蔡先生から、アイデアの着想、商品化、ビジネスへの展開までさまざまな指導を受けました。沼田郷先生からもプレゼンテーションに関するアドバイスをいただきました」

「発表当日は、私たちの成果が十分に発揮されたと思います。審査員の方々からはお褒めの言葉をたくさんいただきました。また皆で挑戦したいと思います」

「炸彈麵包(爆弾パン)は、台湾では子供から大

「発表当日は、私たちの成果が十分に発揮されたと思います。審査員の方々からはお褒めの言葉をたくさんいただきました。また皆で挑戦したいと思います」

総合経営学部 経営学科

学生が田植えも仕込みも 「純米吟醸青森大学」完成



発表会での集合写真の様子

前左から 白神酒造 西澤社長、コンビニ&リカータカハシ 高橋社長

総合経営学部の学生らが昨年3月から取り組んでいたゼロからの日本酒づくりプロジェクトが終了した。4月24日に「純米吟醸青森大学」を一般公開、販売がスタートした。このプロジェクトに参加したのは沼田郷教授のゼミの学生10人。白神酒造（弘前市）とコンビニ&リカータカハシ（青森市幸畑）の協力の下、酒米の田植えから稲刈り、仕込み作業、ラベル制作といった一



ラベルは2種類デザインされた

連の作業を行った。青森ねぶたの写真を採用したラベル作りにあたっては桃川（おいらせ町）、6代目ねぶた名人の北村隆さん

の協力を得た。プロジェクト代表の佐々木亮磨さん（4年）は「田植えも稲刈りも酒麴での仕込みも初めての経験でした。総合経営学部の学生として、販売に関することやラベル作りには特に力を注ぎました」と振り返った。

白神酒造の西澤誠社長は「予想とは少し違う味になったが、予想外はモノづくりの醍醐味であり、それも含めて学生さんたちと作れてよかった」と話した。コンビニ&リカータカハシの高橋誠治社長は「今回の経験を通じて今後、お酒に興味を持ってくれる学生が出てきたらうれしい」と期待していた。

新入生の声



PROFILE

氏名：成田 理臣さん
出身校：青森県立青森商業高等学校

「青森キャンパスの印象はどうか。」
「キャンパス内にはさまざまな建物があるので、移動が大変です。」

「高校の授業と比べて、大学の授業はどうですか。」

「大学では自分が興味のある授業を選ぶことができるので、退屈することはありません。」

「大学ではどんなことを学びたいですか。」

「高校2年生のときから青森大学で簿記を学んでおり、このまま勉強を続けて日商簿記1級を目指すつもりです。簿記についてしっかりと語ることができるようになるため頑張ります。」

「キャンパスライフも楽しみたいですね。」

「サークルにはまだ所属していませんが、野球観戦が好きなので球場に行くのが楽しみです。青森大学の硬式野球部は強豪なので、試合を応援したい。」

学生研究発表大会開催



学部長から労いの言葉と賞状、副賞を受け取った

学生研究発表大会が3年ぶりに記念ホールで行われた。今年は東京キャンパスとオンラインでつなぎ、留学生2名が代表として報告するなど、総合経営学部にもふさわしい多岐にわたるテーマが取り上げられた。学生たちは熱心に研究に取り組み、発表に臨んだ。

た。留学生の報告では、中国のビジネス事例を紹介し、その地域の文化や風習なども紹介し、聴衆を引き込んだ。

発表テーマには、イノベーションやビジネス、スポーツをテーマにしたものが含まれており、全国各地の先進事例の紹介など、興味深い内容が満載だった。

総合経営学部の学生の皆さんが、自分の専門分野で研究発表を行うことで、知識やスキルを磨き、さらに学修を深めることができた。経営に携わるにあたり、多様な視点を持つことが求められる現代社会において、総合経営学部学生の研究テーマや成果が多岐にわたることは、大きな意義を持つものと言える。

社会学部 社会学科

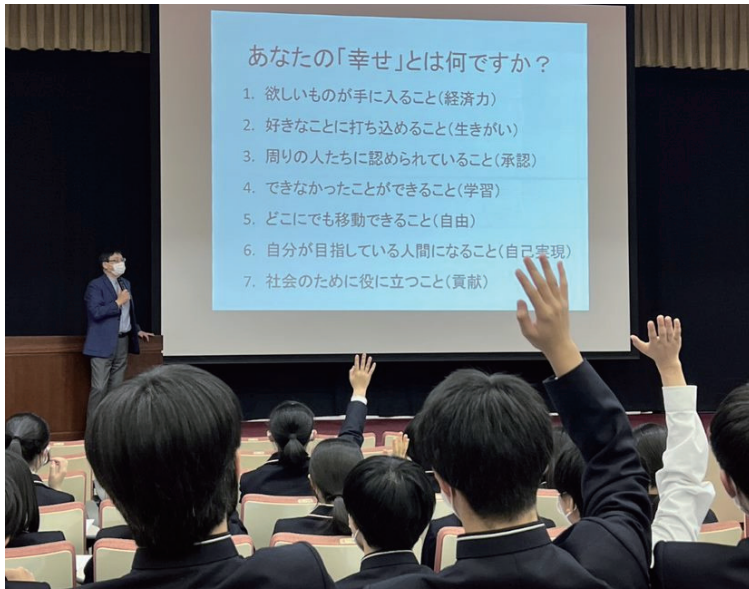
今年度も青森山田高校キャリアアップコースの皆さんとの高大連携授業がスタートした。

本授業は「大学の学び」において、自分自身で課題を見つけ、試行錯誤しながら解決することで主体的な学びを体験し、楽しさを

実感してもらうことを目指している。課題探求型の学修は高校教員だけではカバーしにくい部分もあると考えられる。このため対応できる大学教員や学生によってフオーアップしていく。

授業では初めに鈴木康弘教授がこれから体験する学びや望まれる姿勢、自分自

「高大連携事業」



先生と生徒がコミュニケーションを取りながら授業は進められた

身への問い掛けについて説明した。6つのテーマが示され、高校生たちは、それぞれ聞いた話を持ち帰り、希望のテーマへ配属され、大学の学びがスタートする。

参加した高校生は「今後の授業が楽しみ。質問される中で、普段考えていることをはっきりと自覚したことが新鮮でした」などと話していた。

6つのテーマは以下の通り。▼「世界のムナカタ」棟方志功120年の足跡をたどる(清川繁人教授)▼「都市(まち)のつくりかた、さあ！みんなで素敵な「都市」を自由自在に創ってみよう！(佐々木淳一教授)▼「薪ストーブが青森を救う!?(柏谷至教授)▼私のキャリアと青森の未来(佐藤淳教授)▼「地域活性とは何か。もし、あなたが浅虫の地域活性化伝道師だったら...?(石井重成准教授)▼「みんなちがって、みんないい」はず。身近な差別を考える(田中志子教授)

新入生の声



PROFILE

氏名: 北島 慎太郎さん
出身校: 青森県立青森ろう学校

「90分の講義は長く感じますが、それでも何となく自由を楽しめています」

「出会いはありましたか。」

「聴者と一緒に学ぶ環境は初めてだったので、うまく話せるか不安でしたが、新しい友達ができました」

「これからの4年間でやってみたいことは何ですか。」
「スウェーデンを含むヨーロッパの国々に留学したいと思っています。それに向けて英語の勉強を始めました。社会保障制度が充実した国で、障がいのある方々がどのように生活しているのかを実際に自分の目で確かめたいのです」

「将来の抱負や夢は。」

「まだはつきりしません。ただ、障害の有無に関係なく、人々が支えあい、共に生きていくためにどのような環境が必要かについての調査などしたい」

企画！SDGsデイキャンプ

石井重成准教授のゼミが、令和4年度青森大学地域貢献賞奨励賞を受賞した。

同ゼミは、「青森らしさ」「青大らしさ」「ゼミらしさ」を学生目線でワーケーションを深掘りし、青森県のワーケーション推進に取り組んでいる。

青森市役所新しい働き方推進室と連携し、「青森市ワーケーション企画！SDGsデイキャンプ」というワーケーションプログラムを開発。SDGsを取り入れ、県外からの参加者に「SDGsデイキャンプ」や「交流座談会」を提供した。また、「青森圏域連携



青森大学地域貢献賞 授賞式の様子

中樞都市圏市町村長会議に参加し、プログラム開発の経過や成果を報告。ゼミ代表の丹治晶さんからは、「参加者との交流を通じて、新たな考え方や視座を学び、キャリア選択の可能性を拓ける機会となった。また、県外参加者から見る『青森の魅力』に触れ、自分たちが住む地域を見つめ直す貴重な機会となった。次年度も引き続き、コンテンツ作りや運営に力を入れたい」との声が聞かれた。

同ゼミの活動は、青森県のワーケーション事業推進にとって大きな貢献となっている。

ソフトウェア情報学部 ソフトウェア情報学科

本年度のソフトウェア情報学部の新入生向けのオリエンテーションが4月3日から6日までの4日間、東京キャンパスで行われた。青森、むつ、東京の3キャンパスの新入生が一堂に会した。

学生生活や講義の履修に関する説明に加え、学部の教務員の自己紹介や青森山田学園の岡島成行理事長からの講話も行われた。各キャンパスの在学生は履修のコツや大学生活などについて学生の視点



バイキング形式で、
各々好きな場所で朝食をとった

で大学を紹介した。
オリエンテーションの合

間には東京キャンパスの見学ツアーや新入生同士の自己紹介の時間なども。新入生らはリラックスした様子

東京キャンパスで オリエンテーション



アイスブレイキングで交流を深める新入生たち

「東京出身のため少し不安だったが、学友たちと友達になれて良かった。勉強する場所を選ぶこともできるようなので、1年ぐらいい東京キャンパスで学ぶのも楽しそう」との声もあった。

新入生の声



PROFILE

氏名：古川麗菜さん
出身校：青森山田高等学校

「学生生活はどうですか。」

「大学での空き時間には、キャンパスでランチを楽しんだり友人とゆつくり過ごしたりするのが楽しいです。車で通学しているのですが、今まで通らなかった道や見慣れない風景に出会い、感動しています(笑)。地元なのに知らないことをたくさん発見しています。」

「これからやってみたいことはありますか。」

「大学生活に、もう少し慣れてきたら、サークルに入ってみたいと思います。」

「大学での抱負を教えてください。」

「学外で開催される地域のイベントにも参加してみたいと考えています。バイトやイベント、サークル活動に参加しながら、卒業後社会で活躍できる力を身につけていきたいと思います。」



エントランスで参加者たちと記念撮影

Googleオフィス訪問

東北TECH道場・青森

道場チームのソフトウェア情報学部1年生が、Google 日本法人のオフィスを訪問した。東北TECH道場は、Google社の支援のもと、東北地方の復興と技術者育成を目指し、地域の高校生・大学生・社会人に対する情報人材育成を取り組んでいる。東北TECH道場10周年イベントでは、道場生や道場主が集

まり、活動報告やアプリの紹介などを行った。青森道場からは、1年生ジョシユア・リユー・リック・シャ君が講師を務める勉強会の様子や、英語学習のためのWebアプリ開発について紹介した。

Googleオフィス。ツアーでは、ラウンジやスポーツジム、ゲームスペースなどにも見学に行き、楽しい時間を過ごした。

薬学部 薬学科



学生たちの説明に、聞き入る先生や参加者たち

卒業研究発表会開催

2022年度の薬学部卒業研究発表会が昨年9月、実施された。学生らは自らが行った研究の意匠や価値、内容を教員や学生、高校生にプレゼンテーション。その上で質問やディスカッションが活発に行われた。

この発表会は高大連携の一環として、青森山田高校の生徒が「総合的な探求の時間の一部として参加した。」発表は33件。発表タイトルは一部抜粋。

- ▼「睡眠障害とうつー睡眠障害が先か？」（発表：秋元義登 指導：寺村俊夫教授・井沼道子助教）
- ▼「青森市中心市街地における高周波電磁波環境の安全性評価」（発表：岡本那々花 指導：中田和一教授）
- ▼「スポーツ系飲料に含有しているカフェイン量とパフオーマンスに与える影響」（発表：久保蓮 指導：川村仁教授）
- ▼「食物アレルギー対策の現状と課題」（発表：白山江輔 指導：齊藤弘子教授）

新入生の声



PROFILE
氏名：伊藤 里桜さん
出身校：青森県立青森東高等学校

「新生活はどうですか。入学早々のオリエンテーションで多くの友達ができ、良いスタートが切れました。」

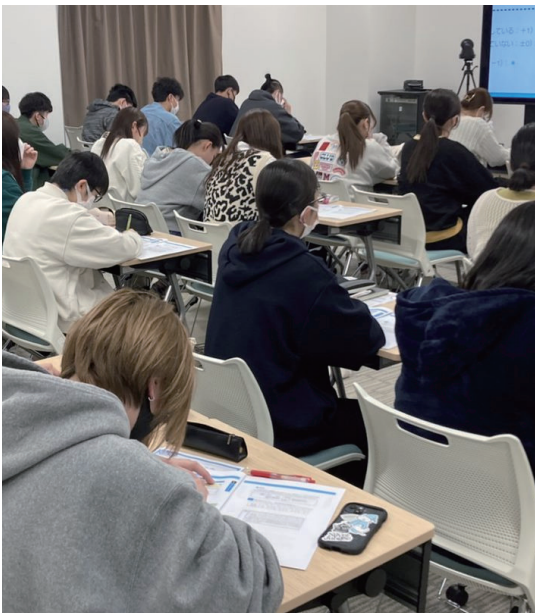
「どんな抱負がありますか。高校の課題研究で、副作用のないがんの新薬開発について調べたことがあります。青森大学にある青森ねぶた健康研究所で、副作用のないがんの新薬開発に少しでも携わってみたいと考えています。薬剤師になって患者さんの笑顔を見たいという小学1年生からの夢をかなえるため、国家試験にストレートで合格したい」

「ほかに学生生活でチャレンジしたいことはありますか。社会経験としてアルバイトをやってみたい。将来、患者さんとかかわる際に必要となるコミュニケーション能力を少しでも育てるために、接客業に挑戦したいと思っています。」

本年度の薬学部の新入生向けのスタートアップキャンプが4月3日から5日までの3日間、むつキャンパスで行われた。このキャンプは、これから共に勉学に励む仲間との親睦を図り、大学生活や授業に安心して入っていくためのもの。教育課程や学則、出席と履修登録、薬学教育センターなどについての説明が行われた。

新入生と教職員との交流イベントなどの合間には、薬剤師としての心構えや必要とされる職業など、大学生活に必要な基礎知識を学ぶための講義も行

安心して学生生活をむつでスタートアップキャンプ



ガイダンスを受ける新入生たち

水野憲一学部長は「薬剤師は医療インフラを支える非常に重要な仕事だ。教職員一同で皆さんを学業と生活の両面で全力で応援する。知識や技術だけではなく、会話を通じて患者さんの情報を得るといいうコミュニケーションスキルも身につけてほしい」と語りかけた。

新入生からは学生生活への期待や将来の抱負を語ることは相次いだ。たとえば「教授からの話を聞き、いよいよ薬剤師への道が始まったと感じた。高校生の時に薬剤師体験セミナーに参加したという新入生は「とても楽しい思い出があります。社会のあらゆる場面で活躍する薬剤師にカッコよさを感じています。自分も社会に役立ちたいと強く思っています」と話していた。



夕食の様子

世界に通用するプロスノーボーダーに

総合経営学部2年

鳴海綾音さん

—第41回J S B A全日本スノーボード選手権大会で2位入賞おめでとうございませう。スノーボードや青森大学入学のきっかけを教えてください。

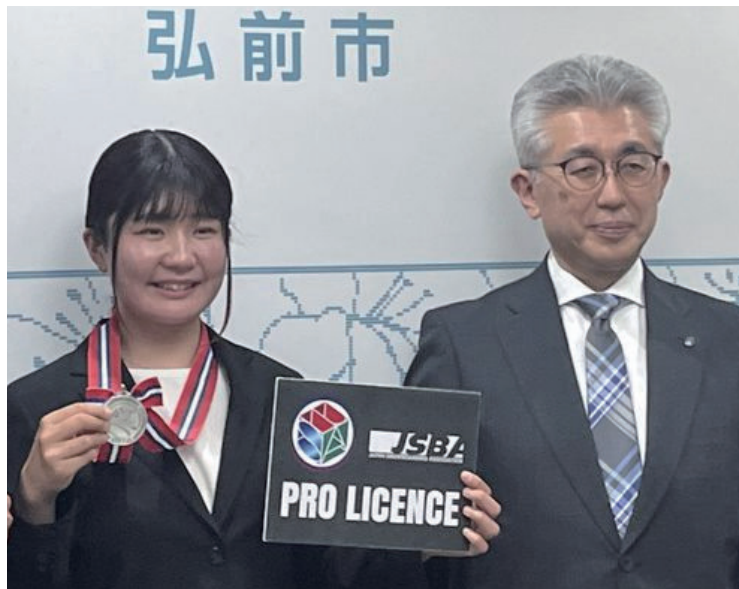
「スノーボード好きな父の影響を受け、5歳から滑り始めました。実家の近くには、岩木山百沢スキー場という練習できる場所

があり、行ける時は必ず行っていました。それがとても楽しかったです。ただ、プロとなるための準備として、高校生までの生温い練習だけでは十分だと感じ、トレーニングを行える場所に飛び込むことを決断し、スキー部(スノーボード)がある青森大学への入学を決

めました」

—青森大学に入って1年です。勉学と部活の両立は大変じゃないですか？

「世界に通用するプロスノーボーダーになりたいです。もっと鍛錬を重ねたいと思っています。大学キャンパス内のトレーニング施設だけでなく大学周辺にある運動公園等、放課後はもちろん、



弘前市役所に桜田宏市長を表敬訪問する鳴海さん (東奥義塾高等学校卒)

講義と講義の合間の空き時間を使い鍛錬に励んでいます。自分自身を磨くために必要な勉強、プロスノーボーダーになるための部活です。大変と思ったことはないですね。まだまだやりたいです。両立は楽勝ですね(笑)」

J S B A全日本スノーボード選手権大会で2位入賞したことでプロライセンスを取得した鳴海さん。現在は、ナショナルチームに選抜される可能性があります。怪我だけはないように頑張ってください！



CTCシステムマネジメント株式会社 濱田 玲菜さん

青森県立青森南高等学校卒
ソフトウェア情報学部 2020年度卒業

先輩訪問



—現在、どんな仕事をしていますか。

「IT関連の企業です。お客様先に常駐し、O Aサポート中心の業務を行っています。日々の仕事で人と関わっていく中で『ありがとう』と感謝される機会も多く、やりがいを感じて

います」

「社会人になって2年ですが、任せてもらえる業務も増えました。もっと実力をつけ、チームを引っ張る存在になりたいです。業務改善でもチームに貢献出来たら嬉しいですね」

—青森大学を選んだ理由

や学生生活について教えてください。

「高校の情報の授業が大好きだったので、プログラミングを学ぼうと思い青森大学に入学しました。先生方が常に横でサポートしてくださるので、すぐに質問できるのが良かったです。少人数制なので、勉強以外の話をすることもできました」

「キャリアサポートがとても充実、就職活動を行う際、先生方から何度もアドバイスをいただき、大変頼りになりました」

らせん状に彫り込まれた木柱もあればクマやフクロウをかたどったものもある。

青森キャンパス内のあちこちに登場したチェンソーアートが学生や来訪

チェンソーアート

者からの目を引いている。

同キャンパスでは、施設整備の一環として、木の伐採が定期的に行われている。総合経営学部の佐々木豊志先生のゼミと大学が共同で、伐採した

終了した。

学生らはチェンソーの扱い方はもちろん、作品のテーマづくりのほか、温暖化にまつわる森の変化や害虫被害についても指導を受けた。